

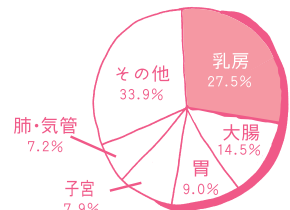
病は知から

乳がん

現在、乳がんになる日本人女性はおよそ12人に1人。30代から増え始め、40〜50代でもっとも多くなっています。ほかのがんと比べ、若い世代でもかかる人が多いのが特徴です。

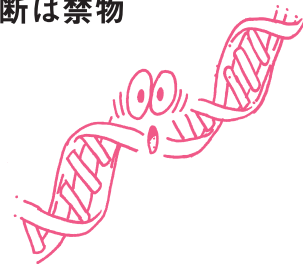
「乳がん」って、どんな病気？

女性がかかるがんでいちばん多い



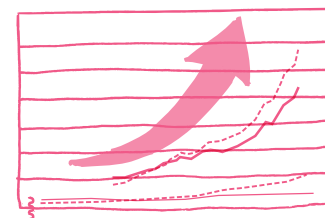
女性のがんの中で、もっとも多いのが乳がん。死亡率は5番目で、早期に発見できれば比較的治りやすいがんといえます。

親がなっていないなくても油断は禁物



遺伝性の乳がんは全体の1〜2割。多くは遺伝とは関係のない要因なので、親族に乳がんの方がいなくても注意は必要です。

乳がんになる人は増加している



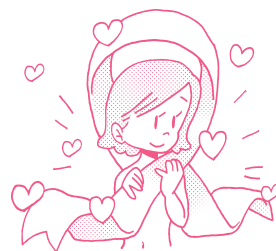
ライフスタイルや食事の変化、出産の高齢化など、さまざまな要因によって乳がんになる人は増え続けています。

しこりにならない乳がんも



乳がんの中には、早期にはしこりにならないものも。これはマンモグラフィ検診を受けないと見つかりません。

日本は検診の受診率がとても低い



日本の乳がん検診率は3〜4割と、先進国では最低レベル。積極的にマンモグラフィ検診を受けましょう。

まれに、男性が乳がんになることも



少ないとはいえ、男性でも乳がんになることがあります。可能性があることを知って、受診が遅れるのを防ぎましょう。

早期発見が大切 心に寄り添う「乳がん」のケア

日本では乳がんにかかる人が増え続ける中、検診を受ける人はまだ少ないのが現状。そこで、検査や治療に関する話を乳腺・内分



患者さんの気持ちに寄り添いながら、最先端の検査・治療を行っています。

最低でも2年に1回はマンモグラフィ検診を受けましょう。

乳腺・内分泌外科 三好 康雄 教授

乳がんは「早期に発見できれば治りやすいがん」です。しこりやひきつれ、変形などによる左右の形の差、乳頭からの分泌物がないなど、まずは月1回のセルフチェックを行いましょう。しこりにならず、自分では気づきにくいがんもありますが、兵庫医科大学病院ではそうしたがんを早期発見するために、ステレオガイド下マンモトームと呼ばれる特殊な検査機器も導入しています。

もしも乳がんが見つければ、基本的に治療は手術となります。目安として、がんが3cm以下であれば乳房を温存する手術が可能。乳がんには抗がん剤やホルモン剤がよく効くため、手術前にこれらの薬でがんを小さくするという方法もあります。温存ができない場合でも、希望される方には、形成外科と連携して乳房再建術を行うことが可能です。最近では分子標的薬など

新しい薬の開発も進んでおり、当院ではそういった薬の治療も行っていきます。また、遺伝が原因の乳がん・卵巣がんを心配される方には、臨床遺伝部にて遺伝子検査を受けていただくこともできます。もしも遺伝子の変異が見つかった場合には、乳腺・内分泌外科と産科婦人科が連携して患者さんのご希望に沿った処置を行います。

治療は、患者さんに納得して受けていただくことが何より重要だと考えています。そこで、当院では乳がん看護認定看護師を中心に、治療に関することはもちろん、精神面・生活面にいたるまでサポートしながら、より良い選択をしてもらえるよう常に心がけています。また、乳がんの患者さんたちにとっては、治療を乗り越えた体験者のアドバイスを聞いたり、患者さん同士自由に話したりする機会も貴重ですので、月2回「おしゃべりサロン」を開催するなどの取り組みも行っていきます。